



元日や蘭の日南に常の如く... 新年を迎えようとする、自分... 師長谷川零子氏の作句...

新年を迎えようとする、自分... 師長谷川零子氏の作句... 考へられる。

正月は一年の第一歩である... 一年の計は元日にあり... 吹雪は毎日ごつごつと庭木を...

正月を春といふは主観的な... 感じであるだけだ正月の感... じは何となくも雑感を食...

賀状は形式であるといふ言... 語で、その歳時記の語句... いひ、俳句に現れた正月...

松の内は厳禁さし保し、松... がされた遊べないもの... らやうに境界のつけられ...

無頼子 初詣茶屋にまだ居る下僕... 今日ばかり初詣の舟に...

整理整頓のこと、金解禁... のことを考へて見たこ...

新年を迎えようとする、自分... 師長谷川零子氏の作句... 考へられる。

正月は一年の第一歩である... 一年の計は元日にあり... 吹雪は毎日ごつごつと庭木を...

正月を春といふは主観的な... 感じであるだけだ正月の感... じは何となくも雑感を食...

賀状は形式であるといふ言... 語で、その歳時記の語句... いひ、俳句に現れた正月...

松の内は厳禁さし保し、松... がされた遊べないもの... らやうに境界のつけられ...

比無醇芳 醸吟一徳本松... 二五七話電平

比無醇芳 醸吟一徳本松... 二五七話電平

比無醇芳 醸吟一徳本松... 二五七話電平

比無醇芳 醸吟一徳本松... 二五七話電平

比無醇芳 醸吟一徳本松... 二五七話電平

比無醇芳 醸吟一徳本松... 二五七話電平

比無醇芳 醸吟一徳本松... 二五七話電平

産九郎は、あはて、思案... 幸兵衛殿、實は草鞋...

産九郎は、あはて、思案... 幸兵衛殿、實は草鞋...

産九郎は、あはて、思案... 幸兵衛殿、實は草鞋...

産九郎は、あはて、思案... 幸兵衛殿、實は草鞋...

産九郎は、あはて、思案... 幸兵衛殿、實は草鞋...

産九郎は、あはて、思案... 幸兵衛殿、實は草鞋...

産九郎は、あはて、思案... 幸兵衛殿、實は草鞋...



産九郎は、あはて、思案... 幸兵衛殿、實は草鞋...

新春第二回特別興行... 一月九日寫眞替り

蒼白と薔薇... 主演 夏川静江...

徳川天一坊... 主演 千早島子...

胃腸毒... 専門科 外科

淋病と御婦人... 是非この薬が必要

東京峰岸淋丹... 縣下一手頒布所

上野病院... 電話二二九番

特賣 名入武の園一斤... 金壹圓六十錢...

植田町本町 前田醫院... 入院隨時...

毛糸編物講習... 生活改善は衣服から...

生花教授 池ノ坊流... 平町十五丁目通り

目種業營 内地材... 建築諸材請負

佐藤材木店 常磐線平町新川町... 電話三三五番

花 たひら正宗... 福島縣清酒品評會...

木シ胃腸薬... 健康第一 胃腸は健康の要

親子二人が共謀して 酒癖悪い長男を惨殺 死体を菰に包んで竹藪に埋める 四十餘日目で事件発覚し 植田署で大活動

所帯表に多量の血が染んで... 親子二人が共謀して酒癖悪い長男を惨殺死体を菰に包んで竹藪に埋める四十餘日目で事件発覚し植田署で大活動

殺された勝枝は 名だいの酒呑み 筋向ひの床屋 十年前に友人を殺した男 奇しき因縁を語る

右事件に就き附近の理髪屋... 筋向ひの床屋十年前に友人を殺した男奇しき因縁を語る

事件発覚の端緒は 正月前の豊替から 今日起訴收監 寅市親子犯行を自白

別項一被害者下山田勝枝... 事件発覚の端緒は正月前の豊替から今日起訴收監寅市親子犯行を自白

馬の話 馬鹿の語源 馬鹿は何等の関係ない 彼は利口な動物

馬鹿の語源... 馬鹿は何等の関係ない彼は利口な動物

製材機 製材界の大福音 断新な 製材機 製材界の大福音

断新な製材機... 製材界の大福音

共同出荷 地方産卵は 一ヶ四で協定... 再炎した 平役場新築問題

平区町会 電燈問題... 再炎した平役場新築問題

亡妻の連子を 川中に投棄... 龜藏の自白は嘘

理髮總會 聚樂館で... 五犯男の 小泥棒

訓示直後の 料理屋特別執行 南町ふるへ上る

第九回決算報告 自昭和四年六月 至昭和四年十一月

第六拾決算報告 自昭和四年十一月 至昭和四年十一月

藤沼醫院 平町星町 電話五〇七番

株式會社 增尾木工場 增尾甚市郎 電話四六九番

清造元 清水屋 小野晋平 電話六番